

喜屋武の伝統芸能紹介



つなひ 綱引き

旧暦の6月25、26日の二夜に亘って俗に「けんか綱」と称される「喜屋武の綱引き」が催されます。

「喜屋武人の、喜屋武人による、喜屋武人のための綱引き」です。



ちょうじゃ うふしゅー 長者の大主

喜屋武集落に伝わる、旧暦八月の十五夜に行われる村遊びの祭りなどで、演じられる祝賀の芸能で、町の無形民俗文化財にも指定されています。主な内容は福祿寿の三徳を兼備した長者が五穀豊穰と村の繁栄を祈願し子孫たちの芸能を披露して神をもてなすものです。

南風原町では喜屋武で受け継がれています。



ししまい 獅子舞

喜屋武の獅子舞がいつ頃から演じられるようになったかは不明です。

ただ、かつての獅子舞の演者の系譜をたどっていった場合、少なくとも100年以上前から演じられていたことが分かります。

現在の獅子は1949年に作製されましたがそれ以前にも3回ほど作りかえられた事が分かっています。舞い方は3種類あり、その中でも「ションカニグワァーは技術的に難しく」1960年頃から約10年間は演じられず、1970年に復活された時には大喝采が起こりました。

ちゃんちゅ たましい 喜屋武人の魂

公民館擁壁に喜屋武人の“ムスマイ”の心である「喜屋武は綱の結」

芸能を通して喜屋武人の心を豊かにする。

「芸能や喜屋武の肝果報」の看板が掲げられている。

